令和７年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

# 佐世保市立吉井中学校

校　訓：「耕心」

所在地：佐世保市吉井町前岳３番地２
校長名：吉田　涉
生徒数：１２７名（８学級）

## １ 特色ある学校づくりに対する基本姿勢

校訓である「耕心」の精神のもと、「これからの社会的課題を解決し、自ら生きる力を培う教育の充実」をテーマとし、その具現化のために『キャリア教育の充実』『人権意識の向上』『社会性の育成』『夢・志を育てる』の４つを実践目標として、特色ある学校づくりを推進し、実践した。

## ２ 実践内容

### （１）キャリア教育の充実

【2学年】<9月24日（水）～9月26日（金）>：地域（吉井町内外）

吉井町内外の16か所の事業所において職場体験学習を実施。

【全学年】<11月17日（月）>：校内

プラネタリウム解説員とその家族によるキャリア教育講演会を行った。

【2年生】<12月19日（金）>：校内

職場体験学習のまとめとして発表会を実施した。

【1学年】<1月～2月>：校内

職業調べ学習を行い、スライドにまとめ発表会を実施。

【2学年】<2月～3月>：校内

高校調べを行い、新聞やスライドにまとめた。

【3学年】<通年>校内

面接練習や進路資料の掲示等を通じて進路学習の充実を図った。

### （２）人権意識の向上

【全学年】<6月27日（金）>：校内

人権・平和実行委員が中心となって準備し「6.29 平和集会」を実施（リモート）。

【1・3学年】<10月6日（月）、11月20日（木）>：校内

1学年は国際ソロプチミスト佐世保パールから講師を招いて、3学年は助産師の先生を招いて「性教育講演会」を実施。

【全学年】＜10月30日（木）＞：校内

産婦人科医師を招いて「命の学習会」を実施。

【全学年】＜12月10日（水）＞：校内

車いすバスケ体験を通じ、自己の良さや多様性を認め合い、共に支え合う共生の心を育む人権集会を実施。

（3）社会性の育成

【2学年】＜10月9日（木）：校内

学校薬剤師を招き、「薬物乱用防止教室」を行った。

【全学年】＜10月22 日（水）＞校内及び校区内

全校生徒と地域・保護者で校区内の清掃活動「地域クリーン作戦」を実施。"

【2学年】＜11月7日（金）＞：校内

2学年生徒を対象に救命救急講習会を実施。

【全学年】＜11月21日（金）＞：校内

県北少年サポートセンターのスクールサポーターを招いて「防犯講話」を実施。

【全学年】＜12月3日（火）＞校内

全生徒と保護者を対象に、「いのち輝く講演会」を実施。

【1・2学年】＜12月1日（月）＞校内

1・2学年生徒を対象にi−checkの2回目を学校独自で実施。

(4) 夢・志を育てる

【1学年】<10月～12月>校内

吉井地区コミュニティセンターと協働して地域学習「地域のよかとこみつけんね～地域で頑張る大人たち～」を実施。

4 成　果

○2学年は地域の企業や事業所の協力を得て職場体験学習を実施した。この活動を通して将来の職業選択と社会貢献への意識向上につなげることができた。また、まとめ学習では、発表の仕方を各班が工夫し、シナリオや小道具などを生徒たちで準備した。発表会当日は、1年生が見学する中、パフォーマンスや寸劇など、表現力豊かな発表を行うことができた。

○1年生は職業調べを、2年生は高校調べを行い、スライドにまとめ発表会を実施することができた。3年生は面接の練習や進路資料の掲示等を通して、進路学習を充実させることができた。この活動を通して、進路選択への意欲の向上と将来について真剣に考える機会につなげることができた。

○6.29平和集会では、実行委員を中心に佐世保空襲について学習を行った。佐世保の現在の町と当時の街の比較や、佐世保にちなんだ紙芝居や動画を活用したことで、当時の戦争の悲惨さになどについて理解し、戦争や紛争をなくすために自分たちにできることはないか考える機会となった。

○産婦人科医を講師に招き「命の学習会」を実施した。生誕の奇跡や正しい性知識の重要性について学び、自分や相手を慈しむことが、命を大切にすることに直結すると再確認する機会となった。また、産婦人科の仕事内容や、体の不調・不安を気軽に相談できる場所であることを知り、産婦人科をより身近な存在として捉えることにつながった。

○人権集会では、多様な価値観への理解と共生意識の醸成を目的に、車いすバスケットボールチームを招いた講演・体験会を実施した。全生徒と教職員が競技用車いすでの試合を体験し、生徒たちは互いのプレーを自然に称え合う姿が見られた。障がいの有無に関わらず共に楽しむ体験を通じ、社会のハンディを工夫や考え方で解消し、誰もが同じように過ごせる社会の在り方を自分事として捉え、深く考察する貴重な機会となった。

○全校生徒と地域・保護者で「地域クリーン作戦」を実施し、校区内の清掃活動を行った。保護者や地域と協働しながら体験活動を積極的に進め、地域社会の一員としての自覚や地域に貢献する態度を育てることにつながった。

○今年度も子育てアドバイザーの熊丸みつ子氏を講師に迎え、「いのち輝く講演会」を行った。生徒たちには、これから生きていくうえで大切なこととして、「誰かに話すことの大切さ」、「自

分を大切にすること」、「絶対死んではいけないということ」、「いじめは絶対だめ」ということを、大人に向けては、思春期のこどもたちへの関わり方や伝え続けていくことの必要性について、講師の体験談を交えながら語られた。多くの生徒たちは自分を好きになることに前向きになったと感想を書いていた。

○12月に1・2学年生徒を対象にi−checkの2回目を学校独自で実施した。1回目の結果を受けて、生徒一人一人に目を向けた生徒理解に取り組み、その成果を2回目で検証することができた。生徒の個性と自主性を伸ばす指導の工夫につなげることができた。

○1学年では、吉井地区コミュニティセンターと協働して、総合的な学習「地域学習」を行った。「地域のよかとこみつけんね～地域で頑張る大人たち～」と題して、自治協議会の様々な取り組みについての講話やグループワークを通して、地域への愛着と感謝の気持ちの向上につなげることができた。また、学習したことを、吉井地区コミュニティセンターで発表し、地域の人々に向けて発信することで、表現力を養うことができた。数名の生徒が地域の文化祭にボランティアスタッフとして参加するきっかけにもなった。

○ウクライナから日本へ夫婦で避難してこられたギャラクシティまるちたいけんドーム解説員オレナ・ゼムリヤチェンコさんとコスモプラネタリウム渋谷チーフ解説員永田美絵さんをお招きして、キャリア教育講演会を行った。戦争の体験談や、プラネタリウム解説員になったきっかけ、夢をかなえるために実践してほしいことなど、貴重な体験談を聞くことができた。生徒たちは、困難な状況でも夢をあきらめず、自分の将来を前向きに考えることの大切さや、夢を実現するためには「周りに宣言する」「仲間を大切にする」「自分を信じる」ことの大切さを学ぶことができた。

5 今後の課題

今年度は多様な講演会を実施したが、保護者も対象にした講演会への参加が少なかった。1 か月以上前に案内文を出し、その後も数回案内を行ったが、参加者を増やすことがなかなかできていない。地域クリーン作戦についても、今年度も役員以外の保護者の参加者を増やすことができなかった。今後も継続して実施していくためにも、PTA と協力をしながら呼びかけるなど工夫していきたい。